

Ⅱ．緩和ケアの教育と研修

5. End-of-Life Nursing Education Consortium Japan (ELNEC-J) 指導者養成プログラム

竹之内 沙弥香* 田村 恵子**

(京都大学大学院医学研究科医学専攻社会健康医学系 医療倫理学分野* 淀川キリスト教病院 ホスピス**)

はじめに

2007年4月1日にがん対策基本法が施行され、がん対策推進基本計画が立案された。基本計画の重点課題の1つとして、早期からの緩和ケアの提供が掲げられたが、がん診療に携わる医療者の緩和ケアの重要性に対する認識が十分でなく、緩和ケアに関する教育の強化が求められている。その一環として、看護師を対象とした緩和ケアの教育のプログラムである、End-of-Life Nursing Education Consortium Japan (ELNEC-J) 指導者養成プログラムが開発されたので、ここで紹介したい。

わが国における看護師への緩和ケア教育の現状

看護師を対象とした緩和ケア教育は、看護系大学や短期大学における看護基礎教育と、臨床における看護継続教育の2つに大きく分けられる。中村は全国看護大学・看護短期大学・看護専修学校(3年課程)を対象に自らが行った「看護基礎教育における緩和ケア教育の実態調査」の結果、緩和ケアの授業を行っている学校は増加しているものの、学校間の教育内容、教材の位置づけ、教育方法のばらつきが大きく、緩和ケア教育カリキュラムの構築が必要であること、緩和ケア教育を担当できる教員を養成すること、効果的な授業方法の検討などの必要性を指摘している¹⁾。

一方、看護継続教育における緩和ケア教育は、各看護師のレベルに応じて多様な形態で行われてきた。わが国の緩和ケア看護領域のスペシャリス

トとして、緩和ケア認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、がん看護専門看護師らが過去約10年間で合計約500名誕生した。それら特定領域のスペシャリストを育成する教育体制は整備されており、より洗練されたプログラムに更新されている。ところが、新人やジェネラリストの能力開発を促進する緩和ケア教育に用いる、教育プログラムの体系化と整備には未ださまざまな課題が残る。

上記のような日本の看護師に対する緩和ケア教育の現状から、基礎看護教育・看護継続教育の双方の教育の場において、緩和ケアを適切に提供できる看護師育成に関する教育方法の再検討は重要な課題である²⁾。また、患者にさまざまな場面において切れ目のない緩和ケアを実施するには、各地域における緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアの現状や課題を認識したうえで、それらのケアに携わる看護師に対する教育を地域単位で企画・運営し、体系化された教育プログラムを実践することが最も効果的であると考えられる。そのためには、まず各地域で緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアの教育を適切な知識・技術・態度をもって提供できる指導者を養成することが急務である。

そこで、われわれは2007～2008年度厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「がん医療の均てん化に資する緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究」班(木澤班)において、ELNEC-Coreカリキュラムの日本語版である、ELNEC-J指導者養成プログラムの開発に取り組んだ。

End-of-Life Nursing Education Consortium (ELNEC) とその内容

① ELNEC とは

End-of-Life Nursing Education Consortium (ELNEC) とは、2000年にアメリカ看護大学協会 (American Association of Colleges of Nursing ; AACN) と City of Hope National Medical Center が、The Robert Wood Johnson Foundation と米国立がん研究所 (The National Cancer Institute) から助成を受けて作成されたコンソーシアムである。ELNEC が開発した教育プログラムでは、エンド・オブ・ライフ期の医療に携わる看護師に必須とされる知識を提供し、アメリカ全土にとどまらず、世界各国の看護師に対して教育を展開している。さらに、ELNEC の教育プログラムは、エンド・オブ・ライフ期にまつわる看護を網羅的かつ非常に効果的に教育できるツールとして欧米諸国で昨今注目を集めている³⁾。

ELNEC プロジェクト本部の Malloy ら⁴⁾ の報告によると、彼らの調査期間であった1年間に、全米で502名の看護教育者がELNECを用いて460の異なった教育プログラムを実施し、ELNECのカリキュラムがエンド・オブ・ライフ期の看護教育の普及に活用されていると報告している。また、ELNECを受講した看護基礎教育に携わる教員らの報告によると、ELNECを受講したことにより、エンド・オブ・ライフ期の看護教育に費やす授業時間がELNEC受講前よりも平均で約10時間増加し、さらに、その教育を受けた看護学生のエンド・オブ・ライフ・ケアの実践能力も向上したことが明らかにされている⁴⁾。

現在、アメリカをはじめ世界各国で展開されているELNECの教育プログラムは以下の6種類の教育である。

- ・ ELNEC-Core
- ・ ELNEC-Graduate
- ・ ELNEC-Oncology
- ・ ELNEC-Pediatric Palliative Care
- ・ ELNEC-Critical Care
- ・ ELNEC-Geriatric

② ELNEC-Core カリキュラムの内容

ELNEC が提供する教育プログラムの1つである、ELNEC-Core カリキュラムは9つのモジュール (module : 学習単位) (表1) から構成され、それぞれのモジュールには詳細な指導方法や補助教材などの教育ツールが盛り込まれている。このためELNEC-Core カリキュラムを受講し、トレーナーとしての認定を得れば、すぐに教育が実践できるだけの教材が揃えられている。認定を得たELNECトレーナーは、それぞれの現場における対象者に適切な教育方法や、教育の内容を慎重に選択し、効果的な教育を実践することが可能となる。

日本における ELNEC の取り組み

わが国では、2005年に初めてELNECが提供する教育プログラムを、緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアを教育する教育ツールとして使用し、臨床看護師を対象に教育を実施した⁵⁾。その後、2007年より木澤班において、ELNEC-Core カリキュラムの日本語版であるELNEC-Jを策定し、その指導者養成プログラムであるELNEC-J指導者養成プログラム (以下、本プログラム) の開発を開始している (図1)。

① ELNEC-J 指導者養成プログラム

1. 目的

前述したように、本プログラムは効果的な教育方法に関する知識と技術を習得したトレーナーを育成することにより、わが国で緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアに携わる看護師が質の高

表1 ELNEC-Core カリキュラムの9つのモジュール

Module 1	Nursing Care at the End-of-Life
Module 2	Pain Management
Module 3	Symptom Management
Module 4	Ethical Issues in Palliative Care Nursing
Module 5	Cultural Considerations in End-of-Life Care
Module 6	Communication
Module 7	Loss, Grief, Bereavement
Module 8	Achieving Quality Care at the End-of-Life Care
Module 9	Preparation for and Care at the Time of Death

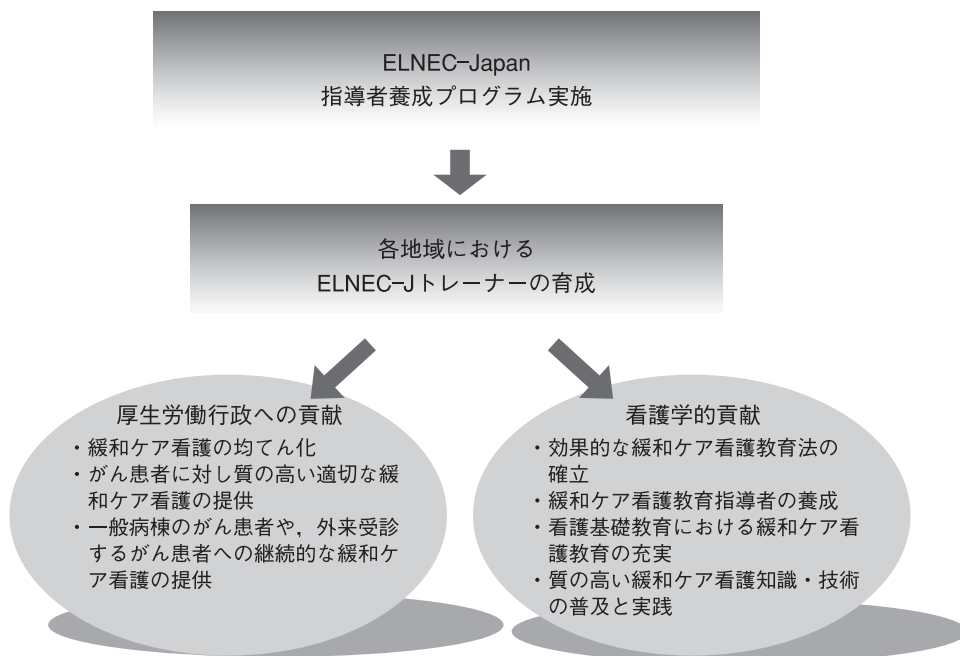


図1 ELNEC-J 指導者養成プログラム

いケアを提供できることを目的としている。

2. 対象者

このため、本プログラムの対象者は、臨床でエンド・オブ・ライフ・ケアや緩和ケアに携わり、緩和ケアやがん性疼痛に対するケアなどの実習を含んだ教育を受けたことがある臨床看護師や、看護系短大/大学でエンド・オブ・ライフ・ケアや緩和ケアの教育に携わる教員で、エンド・オブ・ライフ・ケアの臨床経験を有する看護教育者としている。

3. 内容

本プログラムは、2日間にわたる指導者養成プログラムである。参加者（定員）60名に対し、ファシリテーターを16人配置し、プログラム期間中に、参加者が効果的に教育法を学習できるよう援助する。2日間のプログラムは、ELNEC-Jより提供される各教材の使い方、教育の企画・運営方法の説明から始まる。そして、各モジュールの教育法に関する講義や、教育法に関して参加者が主体的に考察・企画するグループワークのセッション、個々の参加者に働きかける質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアの達成の講義や、受講後1年間の目標と行動計画を立案する目標設定のセ

ッションなどが密に組み込まれたスケジュールで構成される。プログラムを通して紹介される教育法には、

- ・インタラクティブティーチング
- ・視聴覚教材を取り入れた教育
- ・事例検討
- ・小グループ検討
- ・パワーポイントのプレゼンテーションを用いた講義
- ・ロールプレイ

が含まれる。

② ELNEC-J 指導者養成プログラム開催の結果

ここで、2008年11月1～2日に開催したELNEC-J指導者養成プログラムにて得られた参加者からの感想や評価を示したい。

1. 参加者の背景

参加者50名は全員前述の対象者の条件を満たしていた。参加者はすべて女性で、臨床における経験が5～29年と多岐にわたった。所属する施設や地域における、緩和ケアやエンド・オブ・ライフ、ケアにまつわる教育の実施経験年数（図2）

については、5年未満の者が大半を占め、平均経験年数は3.9年であった。

参加者の資格・職位の内訳は表2に示す通りである。認定看護師が参加者全体の56%（緩和ケア認定看護師36%、がん性疼痛看護認定看護師20%）、専門看護師は参加者の1割を占めた。専門看護師についてはその全員ががん看護専門看護師であった。一方、教育関係者からの参加は病院など医療機関の教育担当者、看護系大学など看護教育に携わる教員がそれぞれ参加者全体の6%となった。

2. 参加者からの評価

1) 全体評価

本プログラム終了後、本プログラム全体についての評価や、各セッションについての評価の項目を設定したアンケート調査を参加者対象に実施した。5段階評価（1=最低点、5=最高点）の回答にて、本プログラムの総合評価は4.404であった。また、「エンド・オブ・ライフ・ケアや緩和ケアにおける看護に関して、本プログラムの内容は刺激的で考えさせられるものでしたか?」という質問に対する評価は、4.468であった。プログラムの各セッションの中で、参加者が特に興味をもって受講した講義は、「Module2 & 3 症状マネジメント」の講義であった。さらに、有用であると感じたグループワークは、各小グループ単位で、Module4を用いた教育を企画・運営する、「教育の実践」のセッションであった。

プログラム終了後に回収した評価シートへの自由回答には、

「(教育対象者の)経験年数によって(教育の)目的や目標を設定すること、教育技法を吟味することの大切さを実感しました。ELNECの資料をいただいたことで自分自身も学習する機会を得て、学びをサポートしてもらっていることを感じ、ありがたかったです」

のように、本プログラムに参加したことにより参加者は、教育を実践する際、対象者をよく把握したうえで、用いる教育技法を吟味することの重要性を学ぶことができたという意見が多く寄せられた。

そのほかに、さまざまな教育法を積極的に体験

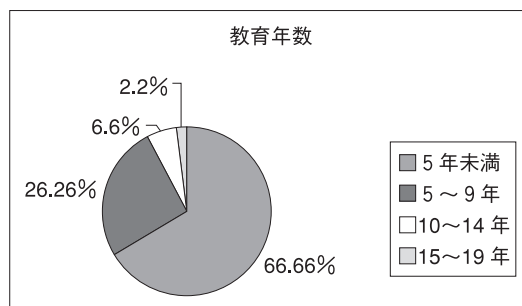


図2 参加者の教育経験年数

表2 参加者の資格・職位（複数回答可）

資格・職位	人数(名)
がん看護専門看護師	5
緩和ケア認定看護師	18
がん性疼痛看護認定看護師	10
医療機関の教育担当者	3
看護師長	3
看護主任	19
緩和ケアチーム専従の看護師	9
緩和ケアチームの看護師	20
病棟スタッフ	16
看護教育に携わる教育機関の教員	3
その他	6

できただけでなく、各トピックスを教育・指導する際、効果的な教育法に関して能動的に検討し、教育を企画・運営した経験から、教育に対して自信がついたと、自信の向上を示唆する回答が多かった。

2) 教材に対する意見

参加者に配布された教材に対する意見としては、

「テーマに関して、自分の考える教育内容で過不足ないか、適切かがよく分からず不安だったので、教育方法だけでなく、ELNEC-Jの教育プログラムも入ったCD-ROMもいただけるのはとても助かりました」

のように、配布したELNEC-JのCD-ROMに電子ファイルの形式で、さまざまな有用なコンテンツが含まれていてよかった、プログラム終了後も楽しんで教育に活用したいという意見が多くみられた。

3) 本プログラムの改善点

本プログラムの改善点としては、グループワー

クの時間の延長に関してのコメントが主であった。グループワークのディスカッションやフィードバックに、予定していたよりも長時間を必要であると感じた参加者が多かったようで、特に教育の実践のセッションでは、準備時間の確保のためにもう少しセッションを延長してほしいという意見がみられた。

また、参加者からの今後の要望として、ファシリテートの具体的方法について学ぶ機会の確保や、スタッフのストレスマネジメントについての研修、さらに、本プログラムのフォローアップ研修を企画し、開催してほしいといった声も聞かれた。

おわりに

本稿では、ELNECとELNEC-J指導者養成プログラムの概要とその取り組みについて紹介した。今後の取り組みとして、本プログラム開催によって、参加者から得られた貴重なデータや意見をもとに、ELNEC-Jのスタッフによる検討を重ね、ELNEC-J指導者養成プログラムにて提供する教育コンテンツの質の向上を目指したい。さらに、参加者が本プログラムを受講することによっ

て受ける影響や、参加者が実施した教育の内容について調査するとともに、参加者が所属する施設における教育の効果の測定を実施することにより、本プログラムを継続的に評価して改善していくことが今後の課題である。

文献

- 1) 中村鈴子：看護基礎教育における緩和ケア教育の実態調査 全国看護大学・看護短期大学・看護専修学校（3年課程）. 日本看護学教育学会誌 14：251, 2004
- 2) 二見典子：がん緩和医療教育の現状と課題 がん緩和医療における看護師教育の現状と課題. 緩和医療学 8 (1): 27-3, 2006
- 3) American Association of Colleges of Nursing and the City of Hope National Medical Center. End-of-life nursing education consortium (ELNEC) course syllabus. 2000
- 4) Malloy P, Ferrell B.R, Virani R, et al : Evaluation of end-of-life nursing education for continuing education and clinical staff development educators. Journal for Nurses in Staff Development 22 (1): 31-36, 2006
- 5) 坂本沙弥香, 浅井篤, 小杉真司：日本の終末期医療に携わる臨床看護師による終末期看護教育コンソーシアム（ELNEC：End-of-Life Nursing Education Consortium）の教育プログラムを用いた終末期看護倫理教育法の評価. 熊本大学先端倫理研究 2：54-65, 2007